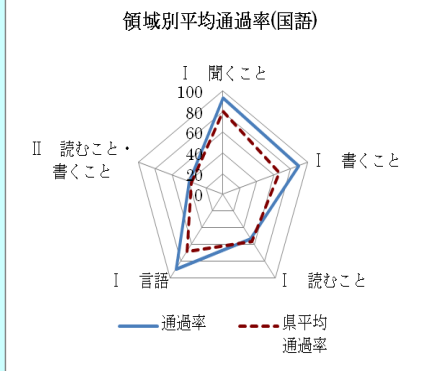
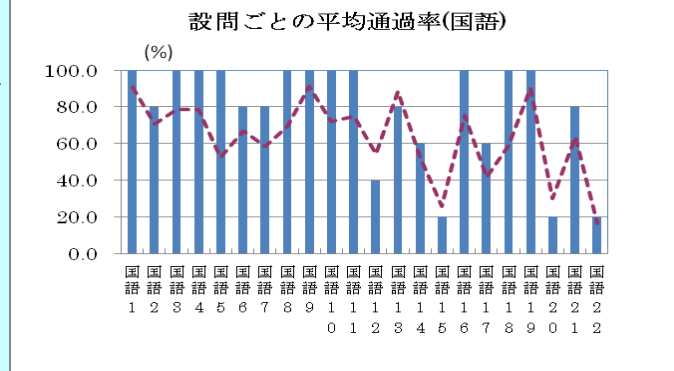


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 78.2%, 県 %)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向について
国語の結果において、タイプⅠは81.3%、タイプⅡは40.0%の通過率となっている。この結果から「聞くこと」「書くこと」「言語」の基礎的・基本的な内容については定着が概ね図られていると考えられる。タイプⅡにおける情報を取り出して情報を関連付けたり、理由や事例を挙げた記述をする設問には課題が見られた。
- 昨年度の課題への取組への成果
昨年度は、タイプⅠ・Ⅱともに「書くこと」において、文や段落を意識した記述について課題が見られたが、日常的に日記を書かせたり相互批評をしたりする中で、文章構成や敬体と常体の違いに気づき、よりよい表現への書き直しについて改善傾向が見られた。

重点課題

- 【課題1】
中心となる語や文の把握についての設問に課題がある。文章の内容を理解し、中心となる語を見つけまとめることができていない。
(通過率 20.0%)
- 【課題2】
情報の取り出し・理由や事例を挙げた記述についての設問に課題がある。また、情報の取り出し・情報を関連付けた記述の設問においても同様の課題が見られた。
(通過率 20.0%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

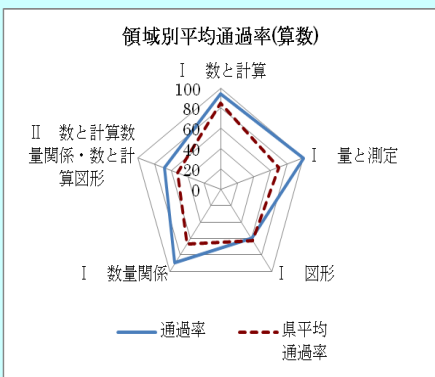
- 【課題1】
中心となる語や文の把握を行わせるために、国語科及びチャレンジタイム (スキルタイム) において、説明文の指導においてワークシートやモデル文、手引き書等の活用を行い、文章の内容をまとめ書くことへの抵抗感を減らすことにより、より親しみを持って意欲的に文章を読ませるようにする。また、ドリルタイムや並行読書等を積極的に行わせ、ことばの基礎力を養わせる。
- 【課題2】
算数科や社会科、理科において、図や表・グラフなどの統計資料等を読み取らせたり、読み取ったことをもとに自分の考えを書かせたりする指導に取り組む。また、生活科や社会科、総合的な学習の時間等で図表やグラフを活用して文章を書く際には、国語科での学習の流れを想起させ、国語科での学びを生かして同様の手順で書かせるようにすることにより力の定着を図る。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				全学年 学期末テスト	全学年 標準学力調査	第4学年 H28「基礎・基本」	全学年 学年末テスト
目標値				80.0%	全国平均を上回る児童 60%以上	60.0%	80.0%
実施後数値							

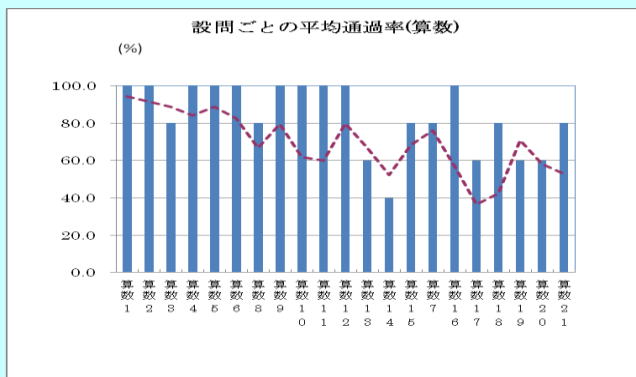
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				全学年 学期末テスト	全学年 標準学力調査	第4学年 H28「基礎・基本」	全学年 学年末テスト
目標値				80.0%	全国平均を上回る児童 60%以上	60.0%	80.0%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 83.8%, 県 %)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について
算数の結果において、タイプIは86.1%、タイプIIは68.0%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については、ほぼ定着が図られていると考えられるが、「平面図形」と「立体図形」については、継続した演習が必要である。また、タイプII、特に「折れ線グラフと棒グラフの関連付け」については、知識・技能を活用する力に課題がある。

○昨年度の課題への取組への成果
昨年度は、タイプII「数と計算・量と測定・図形」の領域で課題が見られた。そこで、算数の用語や数値を使って説明させる言語活動を多く取り入れ、授業を進めた。その結果として、言葉や式を用いて記述し、回答する問いに対して、全員が回答していた。

重点課題

【課題1】

「図形」の領域に課題がある。平面図形においては、コンパスを使い、ひし形を作図する際、どの性質を使って作図しているのかが、理解できていない。立体図形においては、面と辺の特徴や関係性を捉えきれしていない。(通過率 40.0%)

【課題2】

「数と計算数量関係」領域の、「折れ線グラフと棒グラフの関連付け」の問題において課題がある。折れ線グラフはアルミ缶の個数、棒グラフはアルミ缶を持って来た人の数を表したものであるが、折れ線グラフの変化と棒グラフの変化を関連付けて説明することができていない。(通過率 60.0%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

平面及び立体図形においては、それぞれの性質を理解してはいるが、それらを使った課題に慣れていないため、日常生活に関連した、具体的な課題を設定した授業展開を行う。

【課題2】

折れ線グラフや棒グラフ等の資料が、何についての資料なのか説明させたり、資料が複数ある場合には比較させたり必要な資料を取捨選択させたりすることで、それらの資料についての理解を図る。全学年、日常的に算数の授業の中で、算数用語や言葉、数、式、図を用いて考え、説明する算数的活動を多く取り入れ、論理的な発表させる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				全学年 学期末テスト	全学年 標準学力調査	第4学年 H28「基礎・基本」	全学年 学年末テスト
目標値				80.0%	全国平均を上回る児童 60%以上	60.0%	80.0%
実施後数値							

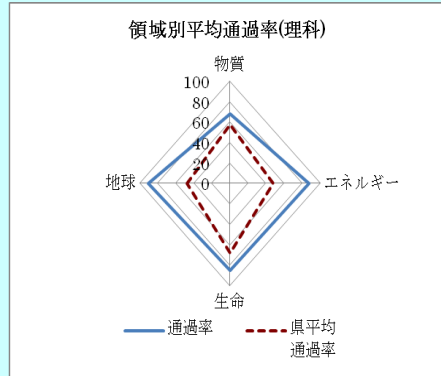
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				全学年 学期末テスト	全学年 標準学力調査	第4学年 H28「基礎・基本」	全学年 学年末テスト
目標値				80.0%	全国平均を上回る児童 60%以上	60.0%	80.0%
実施後数値							

指導方法等の改善計画について〔理科〕

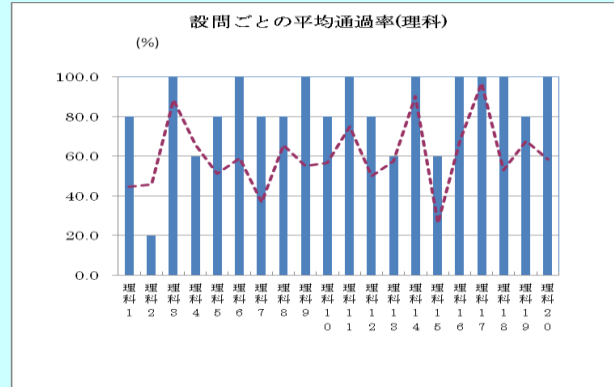
神石高原町立神石小学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 83.0%, 県 %)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について

理科の結果において、タイプⅠは90.7%、タイプⅡは67.5%の通過率となっている。この結果から、「物質」「エネルギー」「生命」「地球」の各領域において、基礎的・基本的な内容については概ね定着していると考えられる。タイプⅡにおける物の重さと体積の関係について、同じ重さで体積が異なる場合、単位量当たりの数値の比較を推察する設問に課題が見られた。

○昨年度の課題への取組への成果

昨年度は、エネルギー領域の「並列つなぎの回路のつなぎ方」に課題が見られた。実際に回路を作図したり、作らせたりする活動を多く取り入れることで、回路についての理解を深める指導をした。その結果、「直列の回路のつなぎ方」の通過率は100%であった。

重点課題

【課題1】

温度による水の三態変化の設問に課題がある。沸騰した水の中から出てくる泡が水の中から出てきた空気であると考えている。泡を集めて、冷やすと水になるという実験を通して、泡は「水蒸気である」ということに気づいていない。
(通過率 60.0%)

【課題2】

量の重さと体積の関係を単位量あたりで比較する設問に課題がある。同じ重さで体積が少ない食塩は、単位量当たりの体積で重さをはかると、相対的に重さは軽くなるという考え方ができていない。
(通過率 20.0%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

沸騰したときに水の中から出てくる泡が何かということを確認する実験として①泡を集めて水の中を通す②泡を集めて冷やす③泡を集めて冷たいものにあてるなどが考えられる。目に見えない水蒸気の扱いなので、児童が実感を持って納得して理解できるように、いろいろな迫り方で課題解決を図る。また、水蒸気が冷えたら水になるということを結露と関連させて、日常生活の中で水蒸気存在に気付かせる。

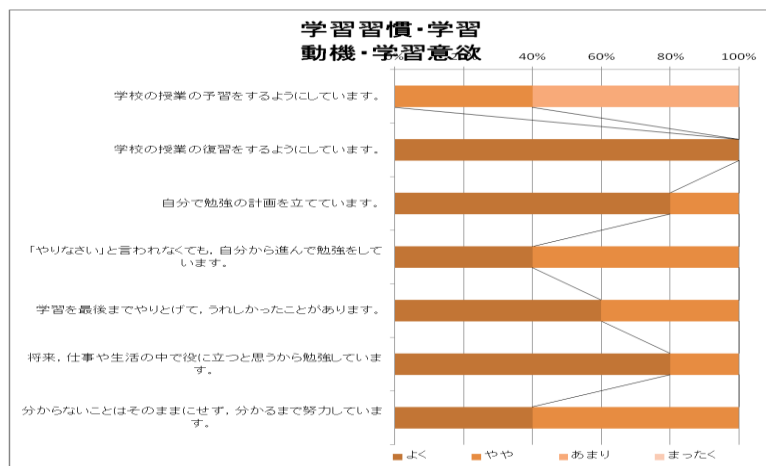
【課題2】

物は、体積が同じでも重さは違うことがあることを実感を持って理解できる学習場面を設定する。例えば、市販されているおなじ1kgの袋でも砂糖と食塩では体積が違う。では、「砂糖と塩の重さはどちらが重いのだろうか」と問うことで、体積を同じにしなければ比べられないことに気づかせ、実験を行い、確かめさせる。また、高学年では算数科の単位量当たりの学習とも関連させて考えさせる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				全学年 学期末テスト	全学年 標準学力調査	第4学年 H28「基礎・基本」	全学年 学年末テスト
目標値				80.0%	全国平均を上回る児童 60%以上	60%	80.0%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				全学年 学期末テスト	全学年 標準学力調査	第4学年 H28「基礎・基本」	全学年 学年末テスト
目標値				80.0%	全国平均を上回る児童 60%以上	60%	80.0%
実施後数値							

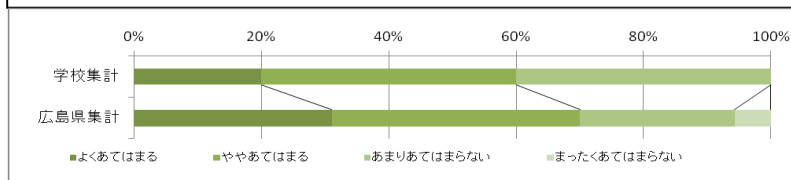
(1) 生活・学習



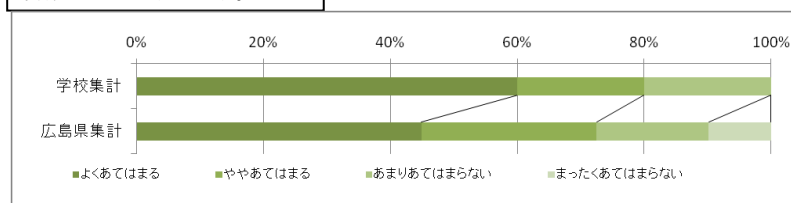
児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
授業の予習をするようにしていると回答した児童は40%、あまりしていないと回答した児童が60%だった。 授業の復習をしていると答えた児童が100%、その他の項目も肯定的な回答が100%を占めており、学習への意欲は高い。	家庭学習を通して、継続して復習を行う。その中で、国語の音読や各教科における調べ学習といった授業の予習を取り入れることで、家庭学習の意欲を高める。	全学年	1週間の家庭学習の中で予習をする児童の割合が80%以上	児童アンケート調査	12月～2月		

(2) 教科

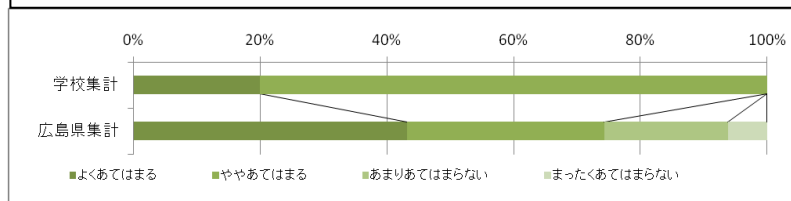
国語の授業では、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしています。



算数の勉強は好きです。



理科の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
質問に対して、当てはまると回答した児童は60%、当てはまらないと回答した児童は40%だった。 話の組み立てを考えて話すことができると回答した児童は80%だったため、自分の考えを書くことに課題があると考えます。	授業などで、図や表、グラフなどの統計資料等を読み取らせ、読み取ったことを、思考ツールを用いて整理したり、自分の考えを書かせたりする指導に取り組む。また、その際に国語科の既習事項を活用して書くことを指導する。	全学年	よくあてはまる、ややあてはまる児童の割合が80%以上	児童アンケート調査	12月～2月		
質問に対して、当てはまると回答した児童は80%、当てはまらないと回答した児童は20%だった。 算数の授業に対し、よくわかると回答した児童は100%だったため、課題に対する意欲が持っていないと考える。	授業等で、生活や身近なものに関連した課題設定をする。また、課題に対する評価規準を児童自身に設定させることで、到達目標を明確にし、授業に対する意欲を高める。	全学年	よくあてはまる、ややあてはまる児童の割合が80%以上	児童アンケート調査	12月～2月		
質問に対して、よく当てはまる児童は20%、ややあてはまる児童が80%だった。 内容によっては生活に関連付けて考えることができているが、自分自身がどのような場面で活用するのかを考えると課題があるのではと考える。	小学校の理科の授業内容は、実生活と直接関連するものがほとんどである。授業で学んだことが、どのような場面で活用できるか単位ごとに考えさせ、理科の学習がより身近なものとなるように指導する。	3年以上	よくあてはまる、ややあてはまる児童の割合が80%以上	児童アンケート調査	12月～2月		